福岡市においてヒトから分離された腸管出血性大腸菌の薬剤耐性状況（2006～2016 年）

保健科学課　岩佐　奈津美 ・ 本田　己喜子 ・
中牟田　啓子

日本食品微生物学会誌

2006 年から 2016 年の間に本市で分離された EHEC 456 事例（806 株）について薬剤耐性状況を調査した．その結果，平均薬剤耐性率は 27.6％であり，薬剤耐性率の経年的な増減の傾向は認められなかったが，血清群によって耐性率に違いがみられた．薬剤耐性パターンは単剤耐性から 8 剤耐性までの 21 パターンを示し，治療に推奨される NFLX 及び FOM や IPM，MEPM に耐性を示す株はなかったが，家畜由来の大腸菌に多いとされる SM，TC，ABPC に耐性を示した株が多数確認された．また，ESBL 産生株が 4 株検出され，そのうち $bla_{\text{CTX-M-15}}$ 遺伝子が O157 から 2 株，O26 から 1 株の計 3 株，$bla_{\text{CTX-M-55}}$ 遺伝子が O103 から 1 株検出された．いずれの ESBL 産生株も 2012 年以降に検出されており，近年になり ESBL による耐性化が進んでいることが示唆された．